

薬理学 2

年次	学期	学則科目責任者
3年次	前学期	三枝 禎 (薬理学)

学修目標 (G I O) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・単位数：2単位 ・学修目標 (G I O)：薬物を有効かつ安全に使用するため、歯科医師として備えるべき薬理学の知識を確実に身につける。また、薬物の効果を客観的に解析する方法を知る。実験動物の尊い犠牲のもとに行われる実習を通じて、座学で学んだ事柄を医療の場で運用可能な実践的な知識にする。
担当教員	三枝 禎、山根 潤一、松本 裕子、青野 悠里、※松崎 桂一、※鈴木 勉、※佐藤 裕介
教科書	現代歯科薬理学 第5版 加藤有三、篠田 壽 監修 医歯薬出版
参考図書	ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学 大浦清 他 永末書店 歯科薬理学 第5版 石田甫 他 監修 医歯薬出版 NEW薬理学 田中千賀子、加藤隆一、成宮周 南山堂
評価方法 (E V)	<p>講義：平常試験 (90%：3回予定)，小テスト (10%：10回程度を予定) の成績によって評価する。平常試験、小試験の結果に基づき、再試験やレポート提出を課すことがある。総授業時間数の1/5以上を欠席した場合、再試験の受験資格は与えない。追試験は正当な理由がない限り行わない。</p> <p>実習：平常試験 (40%：1回のみ予定)，小テスト (20%：5回程度を予定)，レポート (30%)，実習に臨む姿勢・受講状況 (10%) によって評価する。</p> <p>講義 (約60%)，実習 (約40%) の割合で最終評価とする。</p>
学生へのメッセージ オフィスアワー	小試験の用紙にミニッツペーパーの欄 (採点対象外) を設けることがあるので、講義の理解度の確認、疑問の把握に役立てること。 授業・実習ともプリントを用いるが、教科書が理解の助けになるのであるべく持参すること。 授業内容や学修について不明の点は質問して下さい。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/04/09 (月) 2時限 10:40~12:10	動物実験の意義	<p>【授業の一般目標】 動物実験がいかなる場合に社会から容認されるかについて復習する。「全身麻酔薬・筋弛緩薬実習」の手順について知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 動物実験の意義について説明できる。 2. 動愛法に盛り込まれた3Rの原則を挙げられる。 3. 「全身麻酔薬・筋弛緩薬実習」の手順について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 動物実験の留意点について説明できる。「全身麻酔薬・筋弛緩薬実習」について説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 一般教養的事項</p> <p>イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。</p>	三枝 禎
2018/04/09 (月) 3時限 13:10~14:40	中枢神経系に作用する薬物 (1)	<p>【授業の一般目標】 中枢神経系に作用する薬物のうち催眠薬、抗てんかん薬、鎮静薬について知り、その作用の特徴を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 中枢神経系に作用する薬物で見られる生体内分布の面で共通した性質を知る。 2. 向精神薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。 3. 催眠薬、抗てんかん薬、鎮静薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。</p>	三枝 禎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/04/09 (月) 3時限 13:10~14:40	中枢神経系に作用する薬物 (1)	<p>4. 催眠薬, 抗てんかん薬, 鎮静薬の作用機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 中枢神経の働きと仕組みについて説明できる。(教科書:p135-141) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎
2018/04/09 (月) 4時限 14:50~16:20	末梢神経系に作用する薬物	<p>【授業の一般目標】 末梢神経系に作用する薬物を知り, その作用機序について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 交感神経および副交感神経に作用する薬物について説明できる 2. 神経筋接合部に作用する薬物について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 末梢神経の働きと仕組みについて説明できる。末梢神経系に作用する薬物について説明できる。(教科書:p118-134) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 a 投与経路と剤形の種類と特徴 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	松本 裕子
2018/04/16 (月) 2時限 10:40~12:10	中枢神経系に作用する薬物 (2)	<p>【授業の一般目標】 中枢神経に作用する薬物のうち, 抗不安薬, 抗うつ薬, 抗躁薬を知り, その作用の特徴を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 抗不安薬を挙げ, 臨床上の用途と作用の特徴について説明できる。 2. 抗うつ薬を挙げ, 臨床上の用途と作用の特徴について説明できる。 3. 抗躁薬を挙げ, 臨床上の用途と作用の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 中枢神経の働きと仕組みについて説明できる。(教科書:p150-160) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	三枝 禎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/04/16 (月) 2時限 10:40～12:10	中枢神経系に作用する薬物 (2)	有 ミニッツペーパー 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 c 薬物動態 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。	三枝 禎
2018/04/16 (月) 3時限 13:10～14:40	全身麻酔薬・筋弛緩薬実習 (1)	【授業の一般目標】 全身麻酔薬、向精神薬、筋弛緩薬の作用について実験動物の行動を観察して理解を深める。また、実験動物の行動を指標として薬効を客観的に評価する方法について知る。 【行動目標 (SBOs)】 1. 薬物の作用を、実験動物の行動を指標として捉えることができる。 2. 薬物の併用投与が起こす現象について説明できる。 3. 全身麻酔薬、向精神薬、筋弛緩薬の作用機序について説明できる。 4. 客観的に薬効を評価する方法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 薬理作用の種類・薬物の併用投与が起こす現象について復習する。イソフルラン、ペントバルビタール、クロルプロマジン、スキサメトニウム、ジアゼパムの作用の特徴について知る。 準備学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー 【学修方略 (L S)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/04/16 (月) 4時限 14:50～16:20	全身麻酔薬・筋弛緩薬実習 (1)	【授業の一般目標】 全身麻酔薬、向精神薬、筋弛緩薬の作用について実験動物の行動を観察して理解を深める。また、実験動物の行動を指標として薬効を客観的に評価する方法について知る。 【行動目標 (SBOs)】 1. 薬物の作用を、実験動物の行動を指標として捉えることができる。 2. 薬物の併用投与が起こす現象について説明できる。 3. 全身麻酔薬、向精神薬、筋弛緩薬の作用機序について説明できる。 4. 客観的に薬効を評価する方法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 薬理作用の種類・薬物の併用投与が起こす現象について復習する。イソフルラン、ペントバルビタール、クロルプロマジン、スキサメトニウム、ジアゼパムの作用の特徴について知る。 準備学修時間：約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/04/16 (月) 4時限 14:50～16:20	全身麻酔薬・筋弛緩薬実習 (1)	有 ミニッツペーパー 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/04/23 (月) 2時限 10:40～12:10	中枢神経系に作用する薬物 (3)	【授業の一般目標】 中枢神経に作用する薬物のうち、抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、認知症治療薬について知り、その作用の特徴を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 抗精神病薬の臨床上的用途と作用機序について説明できる。 2. パーキンソン病治療薬とその作用機序について説明できる。 3. 認知症の治療薬とその作用機序について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 中枢神経に作用する薬物に共通した性質を説明できる。(教科書:p160-170) 準備学修時間:約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。	三枝 禎
2018/04/23 (月) 3時限 13:10～14:40	全身麻酔薬・筋弛緩薬実習 (2)	【授業の一般目標】 薬効を客観的に評価する統計学的手法について知る。次回行う「鎮痛薬実習」の手順について知る。 【行動目標 (SBOs)】 1. 薬物の作用を、実験動物の行動を指標として捉えることができる。 2. 薬物の併用投与が起こす現象について説明できる。 3. 全身麻酔薬、向精神薬、筋弛緩薬の作用機序について説明できる。 4. 薬効を客観的に評価する統計学的手法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 薬理作用の種類・薬物の併用投与が起こす現象について復習する。イソフルラン、ペントバルビタール、クロロプロマジン、スキサメトニウム、ジアゼパムの作用の特徴について知る。次回行う「鎮痛薬実習」の手順を説明できる。 準備学修時間:約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー 【学修方略 (LS)】 実習	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/04/23 (月) 3時限 13:10~14:40	全身麻酔薬・筋弛緩薬実習(2)	<p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/04/23 (月) 4時限 14:50~16:20	全身麻酔薬・筋弛緩薬実習(2)	<p>【授業の一般目標】 薬効を客観的に評価する統計学的手法について知る。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 薬物の作用を、実験動物の行動を指標として捉えることができる。 2. 薬物の併用投与が起こす現象について説明できる。 3. 全身麻酔薬、向精神薬、筋弛緩薬の作用機序について説明できる。 4. 薬効を客観的に評価する統計学的手法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理作用の種類・薬物の併用投与が起こす現象について復習する。イソフルラン、ペントバルビタール、クロロプロマジン、スキサメトニウム、ジアゼパムの作用の特徴について知る。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/05/07 (月) 2時限 10:40~12:10	鎮痛薬	<p>【授業の一般目標】 鎮痛薬の分類を知る。鎮痛薬の作用の特徴と作用機序について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 鎮痛薬を分類できる。 2. 鎮痛薬の作用の特徴について説明できる。 3. 鎮痛薬の作用機序について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 受容体を介した薬理作用について説明できる。酵素に作用する薬物について説明できる。(教科書:p14-18, 143-150) 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】</p>	三枝 禎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/05/07 (月) 2時限 10:40～12:10	鎮痛薬	<p>必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 a 鎮痛薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎
2018/05/07 (月) 3時限 13:10～14:40	非ステロイド性抗炎症薬	<p>【授業の一般目標】 代表的な非ステロイド性抗炎症薬について知り、作用機序について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的な非ステロイド性抗炎症薬を挙げられる。 2. 非ステロイド性抗炎症薬の作用機序を説明できる。 3. 非ステロイド性抗炎症薬の作用の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 オータコイドについて説明できる。(教科書:p38-43, 245-261) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎
2018/05/07 (月) 4時限 14:50～16:20	ステロイド性抗炎症薬	<p>【授業の一般目標】 代表的なステロイド性抗炎症薬を知る。ステロイド性抗炎症薬の作用の特徴と作用機序について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的なステロイド性抗炎症薬を挙げられる。 2. ステロイド性抗炎症薬の作用の特徴について説明できる。 3. ステロイド性抗炎症薬の作用機序について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 エイコサノイドについて説明できる。(教科書:p41-42, 249-253) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p>	山根 潤一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/05/07 (月) 4時限 14:50～16:20	ステロイド性抗炎症薬	<p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 b 抗炎症薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。</p>	山根 潤一
2018/05/14 (月) 2時限 10:40～12:10	局所麻酔薬	<p>【授業の一般目標】 局所麻酔薬の分類について知る。代表的な局所麻酔薬とその作用の特徴および作用機序を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 局所麻酔薬が分類できる。 2. 代表的な局所麻酔薬を挙げられる。 3. 局所麻酔薬の作用の特徴を説明できる。 4. 局所麻酔薬の作用機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 膜輸送タンパクに作用する薬物について説明できる。アドレナリンとその作用機序について説明できる。（教科書：p19-24, 123-126, 232-244） 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 a 局所麻酔 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (3) 局所麻酔法 ①局所麻酔の特徴と目的及び種類を説明できる。 ②局所麻酔薬の分類と、その作用機序を説明できる。 ④血管収縮薬の使用目的と種類、特徴及び臨床使用上の注意を説明できる。</p>	三枝 禎
2018/05/14 (月) 3時限 13:10～14:40	鎮痛薬実習（1）	<p>【授業の一般目標】 鎮痛薬および関連薬の作用を実験動物の行動を指標として解析し、これらの薬物の作用の特徴について理解を深める。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 実験動物の仮性疼痛反応とその評価法について説明できる。 2. 薬物の併用が起こす現象（競合的拮抗）について説明できる。 3. 麻薬性鎮痛薬の作用機序について説明できる。 4. 客観的に薬効を評価する方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 鎮痛薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/05/14 (月) 3時限 13:10~14:40	鎮痛薬実習 (1)	<p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 鎮痛薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/05/14 (月) 4時限 14:50~16:20	鎮痛薬実習 (1)	<p>【授業の一般目標】 鎮痛薬および関連薬の作用を実験動物の行動を指標として解析し、これらの薬物の作用の特徴について理解を深める。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 実験動物の仮性疼痛反応とその評価法について説明できる。 2. 薬物の併用が起こす現象 (競合的拮抗) について説明できる。 3. 麻薬性鎮痛薬の作用機序について説明できる。 4. 客観的に薬効を評価する方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 鎮痛薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 鎮痛薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/05/21 (月) 2時限 10:40~12:10	血液に作用する薬物	<p>【授業の一般目標】 止血薬、抗凝固薬について知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 止血一線溶機構について理解を深める。 2. 止血薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。 3. 止血薬の作用機序が説明できる。 4. 抗凝固薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。 5. 抗凝固薬の作用機序が説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 止血一線溶機構が説明できる。 止血薬、抗凝固薬を挙げられる。(教科書：p180-190) 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p>	三枝 禎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/05/21 (月) 2時限 10:40~12:10	血液に作用する薬物	<p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 f 止血薬、抗血栓薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎
2018/05/21 (月) 3時限 13:10~14:40	鎮痛薬実習（2）	<p>【授業の一般目標】 鎮痛薬および関連薬の効果を統計的に解析する。また次回行う「用量反応曲線実習」の手順について知る。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 実験動物の仮性疼痛反応とその評価法について説明できる。 2. 薬物の併用が起こす現象（競合的拮抗）について説明できる。 3. 麻薬性鎮痛薬の作用機序について説明できる。 4. 客観的に薬効を評価する方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 鎮痛薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。また次回行う「用量反応曲線実習」の手順を説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 鎮痛薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/05/21 (月) 4時限 14:50~16:20	鎮痛薬実習（2）	<p>【授業の一般目標】 鎮痛薬および関連薬の効果を統計的に解析する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 実験動物の仮性疼痛反応とその評価法について説明できる。 2. 薬物の併用が起こす現象（競合的拮抗）について説明できる。 3. 麻薬性鎮痛薬の作用機序について説明できる。 4. 客観的に薬効を評価する方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 鎮痛薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第1実習室</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/05/21 (月) 4時限 14:50～16:20	鎮痛薬実習 (2)	<p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 鎮痛薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/05/28 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験1 (講義)	<p>【授業の一般目標】 薬理学2の講義 (4月9日～5月21日) に関する筆答試験を行う。 平常試験1 (講義) は初回以降の講義から出題する。実習に関する講義と実習での内容は平常試験3で出題する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理学2のこれまで講義の要点を記述できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理学2のこれまで講義の要点が説明できる。 準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 筆答試験 (アクティブラーニングの成果を評価する)</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/05/28 (月) 3時限 13:10～14:40	消化器系に作用する薬物	<p>【授業の一般目標】 消化器系に作用する薬物を知り、その作用機序について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 消化器系に作用する薬物を挙げられる。 2. 消化器系に作用する代表的な薬物の作用機序が説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 消化器系について説明できる。ヒスタミンの作用について説明できる。生体内の化学物質との化学反応を介した薬物の作用機序について説明できる。(教科書: p201-207) 準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p>	山根 潤一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/05/28 (月) 3時限 13:10～14:40	消化器系に作用する薬物	<p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 c 服薬計画・指導 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。</p>	山根 潤一
2018/05/28 (月) 4時限 14:50～16:20	代謝性疾患治療薬	<p>【授業の一般目標】 代謝性疾患の代表的な治療薬と作用機序の特徴について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 糖尿病の治療薬を挙げ、各薬物の作用の特徴を説明できる。 2. 脂質異常症の治療薬を挙げ、各薬物の作用機序を説明できる。 3. 痛風の治療薬を挙げ、各薬物の作用について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 代謝性疾患を挙げることができる。糖尿病の特徴について説明できる。(教科書:p208-229) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ①薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。</p>	山根 潤一
2018/06/04 (月) 2時限 10:40～12:10	呼吸器に作用する薬物	<p>【授業の一般目標】 代表的な呼吸器系疾患治療薬について知り、作用機序について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 呼吸器系疾患の代表的な治療薬の作用機序について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 呼吸器系について説明できる。(教科書:p196-200) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物</p>	松本 裕子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/06/04 (月) 2時限 10:40~12:10	呼吸器に作用する薬物	C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。	松本 裕子
2018/06/04 (月) 3時限 13:10~14:40	用量反応曲線実習 (1)	<p>【授業の一般目標】 シミュレータを用い、用量反応関係について理解を深める。競合的拮抗が起こる仕組みについて知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 用量反応曲線について説明できる。 2. 競合的拮抗と非競合的拮抗について説明できる。 3. 腸管平滑筋の収縮機構について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 細胞膜受容体について説明できる。アセチルコリンまたはヒスタミン受容体をそれぞれ分類できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/06/04 (月) 4時限 14:50~16:20	用量反応曲線実習 (1)	<p>【授業の一般目標】 シミュレータを用い、用量反応関係について理解を深める。競合的拮抗が起こる仕組みについて知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 用量反応曲線について説明できる。 2. 競合的拮抗と非競合的拮抗について説明できる。 3. 腸管平滑筋の収縮機構について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 細胞膜受容体について説明できる。アセチルコリンまたはヒスタミン受容体をそれぞれ分類できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/06/11 (月) 2時限 10:40~12:10	循環器系・腎臓に作用する薬物	<p>【授業の一般目標】 循環器系または腎臓に作用する代表的な薬物について知り、その作用機序を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p>	山根 潤一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/06/11 (月) 2時限 10:40~12:10	循環器系・腎臓に作用する薬物	<p>1. 高血圧症治療薬を分類し、代表的な薬物の作用機序を説明できる。 2. 心不全治療薬を挙げ、作用機序を説明できる。 3. 不整脈治療薬を挙げ、作用機序を説明できる。 4. 狭心症治療薬を挙げ、作用機序を説明できる。 5. 利尿薬および抗利尿薬を挙げ、作用機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 循環器系について説明できる。腎臓の働きについて説明できる。(教科書:p171-179) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 b 薬効 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。</p>	山根 潤一
2018/06/11 (月) 3時限 13:10~14:40	用量反応曲線実習(2)	<p>【授業の一般目標】 用量反応関係について理解を深める。競合的拮抗が起こる仕組みについて知る。また次回行う「薬物動態実習」の手順について知る。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 用量反応曲線について説明できる。 2. 競合的拮抗と非競合的拮抗について説明できる。 3. 腸管平滑筋の収縮機構について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 細胞膜受容体について説明できる。アセチルコリンまたはヒスタミン受容体をそれぞれ分類できる。また次回行う「薬物動態実習」の手順を説明できる。 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/06/11 (月) 4時限 14:50~16:20	用量反応曲線実習(2)	<p>【授業の一般目標】 用量反応関係について理解を深める。競合的拮抗が起こる仕組みについて知る。また次回行う。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 用量反応曲線について説明できる。 2. 競合的拮抗と非競合的拮抗について説明できる。 3. 腸管平滑筋の収縮機構について説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/06/11 (月) 4時限 14:50~16:20	用量反応曲線実習 (2)	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 細胞膜受容体について説明できる。アセチルコリンまたはヒスタミン受容体をそれぞれ分類できる。また次回行う「薬物動態実習」の手順を説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/06/18 (月) 2時限 10:40~12:10	抗感染症薬	<p>【授業の一般目標】 代表的な抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬について知り、各薬物の作用の特徴を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 選択毒性について説明できる。 2. 殺菌作用と静菌作用について説明できる。 3. 抗菌薬の作用機序について説明できる。 4. 抗菌薬を分類し、代表的な薬物を列挙できる。 5. 抗真菌薬を挙げ、作用の特徴を説明できる。 6. 抗ウイルス薬を挙げ、作用の特徴と臨床応用について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 細菌、真菌、ウイルスについて説明できる。(教科書：p263-289) 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 c 抗感染症薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ①薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ②薬剤耐性 (antimicrobial resistance <AMR>) に配慮した適切な抗菌薬使用を説明できる。</p>	松本 裕子
2018/06/18 (月) 3時限 13:10~14:40	消毒薬、防腐薬	<p>【授業の一般目標】 消毒薬を分類して列挙できる。収斂作用と腐食作用について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 消毒薬の作用機序について説明できる。 2. 消毒薬の効果に影響を与える因子について説明できる。</p>	松本 裕子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/06/18 (月) 3時限 13:10~14:40	消毒薬, 防腐薬	<p>3. 消毒薬を分類し, 代表的な薬物を挙げるができる。 4. HBV, HIVに有効な消毒薬を挙げるができる。 5. 収斂作用と腐食作用について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 収斂作用・腐食作用について説明できる。消毒薬について説明できる。(教科書: p334-335, 338-354) 準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室, 第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学, 主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 c 抗感染症薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	松本 裕子
2018/06/18 (月) 4時限 14:50~16:20	歯内療法薬, 歯周疾患治療薬, う蝕予防薬	<p>【授業の一般目標】 歯内療法薬, 歯周疾患治療薬, う蝕予防薬について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 歯内療法薬の種類と作用機序と臨床応用を説明できる。 2. 歯周疾患治療薬, う蝕予防薬の種類と作用機序と臨床応用を説明できる。 3. 歯内療法薬, 歯周疾患治療薬, う蝕予防薬について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 歯内療法薬, 歯周疾患治療薬, う蝕予防薬について説明できる。(教科書: p355-391) 準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 301教室, 第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学, 主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 e 薬物適用の注意 g 齶蝕予防薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎 青野 悠里
2018/06/25 (月) 2時限 10:40~12:10	硬組織, 唾液腺に作用する薬物	<p>【授業の一般目標】 硬組織, 唾液腺に作用する薬物について理解できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 硬組織, 唾液腺に作用する薬物の種類と作用機序と臨床応用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p>	三枝 禎 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/06/25 (月) 2時限 10:40~12:10	硬組織、唾液腺に作用する薬物	硬組織、唾液腺に作用する薬物について説明できる。(教科書:p316-333) 準備学修時間:約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む) 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物治療 e 代謝改善薬、ビタミン 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。	三枝 禎 青野 悠里
2018/06/25 (月) 3時限 13:10~14:40	薬物動態実習(1)	【授業の一般目標】 シミュレータを用いて薬物の血中濃度の変化を観察し、薬物動態について理解を深める。 【行動目標(SBOs)】 1.薬物の血中濃度と関連する諸因子を挙げられる。 2.投与方法による薬物の血中濃度の変化の違いについて説明できる。 3.生物学的半減期について説明できる。 4.生物学的利用能について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 薬物生体内運命について説明できる。 準備学修時間:約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー 【学修方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 301教室、第1実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 b 薬物動態 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 b 用量と反応 c 服薬計画・指導 e 薬物適用の注意 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/06/25 (月) 4時限 14:50~16:20	薬物動態実習(1)	【授業の一般目標】 シミュレータを用いて薬物の血中濃度の変化を観察し、薬物動態について理解を深める。 【行動目標(SBOs)】 1.薬物の血中濃度と関連する諸因子を挙げられる。 2.投与方法による薬物の血中濃度の変化の違いについて説明できる。 3.生物学的半減期について説明できる。 4.生物学的利用能について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 薬物生体内運命について説明できる。 準備学修時間:約30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/06/25 (月) 4時限 14:50～16:20	薬物動態実習 (1)	<p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 b 薬物動態</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 b 用量と反応 c 服薬計画・指導 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/07/02 (月) 2時限 10:40～12:10	抗腫瘍薬	<p>【授業の一般目標】 代表的な抗腫瘍薬を挙げ、作用機序について知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 抗腫瘍薬の一般的な副作用とその原因を挙げることができる。 2. 抗腫瘍薬を分類し、代表的な薬物を挙げることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 悪性腫瘍の特徴について説明できる。薬物療法以外の悪性腫瘍の治療法を挙げることができる。(教科書:p298-310) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物 治療 d 抗腫瘍薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	松本 裕子
2018/07/02 (月) 3時限 13:10～14:40	ビタミン、ホルモン、免疫系に作用する薬物	<p>【授業の一般目標】 ビタミン、ホルモン、免疫系に作用する薬物を挙げ、臨床上の用途と作用機序について知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的なビタミンと、その臨床上の用途を挙げられる。 2. 甲状腺を作用点とする薬物を列挙できる。 3. 性ホルモンと性ホルモン拮抗薬を列挙できる。 4. 代表的な免疫抑制薬および免疫賦活薬と、それらの用途について挙げられる。 5. 抗アレルギー薬とその作用機序について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ビタミンについて説明できる。生理活性物質を分類できる。免疫について説明できる。(教科書:p220-229, 290-297) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p>	山根 潤一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/07/02 (月) 3時限 13:10～14:40	ビタミン、ホルモン、免疫系に作用する薬物	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物 治療 e 代謝改善薬、ビタミン</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。</p>	山根 潤一
2018/07/02 (月) 4時限 14:50～16:20	口腔粘膜疾患に用いる薬物、口腔・顎顔面に現れる薬物の副作用、有害作用	<p>【授業の一般目標】 口腔粘膜疾患に用いる薬物について知る。 口腔・顎顔面に現れる薬物の副作用・有害作用とその原因、対処法について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔・顎顔面に現れる薬物の副作用、有害作用と薬物の関係を説明できる。 2. 薬物を用いた口腔粘膜疾患への対応法について説明できる。 3. 口腔・顎顔面に現れる薬物の副作用・有害作用について説明できる。 4. 薬物の副作用・有害作用への対処法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 口腔・顎顔面に現れる薬物の副作用・有害作用について説明できる。 口腔粘膜疾患とその誘因について説明できる。(教科書:p86-92, 311-315) 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	山根 潤一
2018/07/09 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験2 (講義)	<p>【授業の一般目標】 薬理学2の講義 (4月9日～7月2日) に関する筆答試験を行う。 平常試験2 (講義) は、平常試験1 (講義) よりあとの講義から約80%、平常試験1 (講義) 以前の講義から約20%出題する。実習に関する講義と実習での内容は平常試験3で出題する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理学2のこれまで講義の要点を記述できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理学2のこれまでの講義の要点が説明できる。 準備学修時間:約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 筆答試験 (アクティブラーニングの成果を評価する)</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/07/09 (月) 2時限 10:40~12:10	平常試験2 (講義)	<p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 b 薬効 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬 c 抗感染症薬 d 抗腫瘍薬 e 代謝改善薬、ビタミン f 止血薬、抗血栓薬 g 齲蝕予防薬</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/07/09 (月) 3時限 13:10~14:40	薬物動態実習 (2)	<p>【授業の一般目標】</p> <p>シミュレータを用いて薬物の血中濃度の変化を観察し、薬物動態について理解を深める。また次回行う「処方学実習」の手順について知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の血中濃度と相関する諸因子を挙げられる。 2. 投与方法による薬物の血中濃度の変化の違いについて説明できる。 3. 生物学的半減期について説明できる。 4. 生物学的利用能について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>薬物生体内運命について説明できる。また次回行う「処方学実習」の手順を説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 b 薬物動態</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ③薬理作用を規定する要因 (用量と反応、感受性) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/07/09 (月) 4時限 14:50~16:20	薬物動態実習 (2)	<p>【授業の一般目標】</p> <p>シミュレータを用いて薬物の血中濃度の変化を観察し、薬物動態について理解を深める。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の血中濃度と相関する諸因子を挙げられる。 2. 投与方法による薬物の血中濃度の変化の違いについて説明できる。 3. 生物学的半減期について説明できる。 4. 生物学的利用能について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>薬物生体内運命について説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/07/09 (月) 4時限 14:50~16:20	薬物動態実習 (2)	<p>コ 薬物療法 b 薬物動態</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ③薬理作用を規定する要因 (用量と反応、感受性) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/07/21 (土) 2時限 10:40~12:10	がん性疼痛治療法 ペインコントロール	<p>【授業の一般目標】 緩和医療におけるペイン (疼痛) コントロールの重要性について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. がん性疼痛の治療法について説明できる。 2. ペインコントロールについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 麻薬性鎮痛薬の作用機序、副作用、依存性、退薬症候について説明できる。 (教科書; p143-150) 準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 b 薬効 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 c 服薬計画・指導 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-1) 薬物と医薬品 ①医薬品の分類を説明できる。 ②毒薬、劇薬及び麻薬等の表示と保管を説明できる。 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ④薬物の運用の影響 (耐性、蓄積及び薬物依存) を説明できる。</p>	鈴木 勉
2018/07/21 (土) 3時限 13:10~14:40	処方学実習	<p>【授業の一般目標】 安全かつ有効な薬物の処方が行える。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 患者の状況に即した薬物を処方できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 処方せんについて説明できる。薬物の効果に影響を与える諸因子を説明できる。 準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里 佐藤 裕介

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/07/21 (土) 3時限 13:10~14:40	処方学実習	<p>必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-1) 薬物と医薬品 ①医薬品の分類を説明できる。 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里 佐藤 裕介
2018/07/21 (土) 4時限 14:50~16:20	処方学実習	<p>【授業の一般目標】 薬物の処方が理解できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 処方した薬物の情報を収集し説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬物の処方が説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-1) 薬物と医薬品 ①医薬品の分類を説明できる。 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里 佐藤 裕介
2018/07/23 (月) 2時限 10:40~12:10	平常試験3 (実習)	<p>【授業の一般目標】 薬理学2の実習と実習に関連した講義 (4月10日~7月3日) に関する筆答試験を行う。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理学2の実習の要点について記述できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理学2の実習の要点について記述できる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 筆答試験 (アクティブラーニングの成果を評価する)</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ③薬理作用を規定する要因 (用量と反応、感受性) を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/07/23 (月) 3時限 13:10~14:40	小児、妊婦、高齢者、有病者の薬物療法	<p>【授業の一般目標】 小児、妊婦、高齢者、有病者に対する薬物療法の留意点について知る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 小児、妊婦、高齢者に対して薬物を投与する際の留意点について説明できる。</p>	青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/07/23 (月) 3時限 13:10~14:40	小児, 妊婦, 高齢者, 有病者の薬物療法	<p>2. 何らかの疾患を有する患者に対して歯科治療を行う場合, 薬物の使用で留意すべき点を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 小児, 妊婦, 高齢者の特徴について説明できる。歯科治療を行ううえで, 留意すべき疾患を挙げられる。(教科書: p93-97) 準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 イ 用法と用量 e 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ③薬理作用を規定する要因 (用量と反応、感受性) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。</p>	青野 悠里
2018/07/23 (月) 4時限 14:50~16:20	漢方薬による治療の基礎	<p>【授業の一般目標】 漢方薬による治療に関する概念, 用語を知る。生薬について知る。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 漢方薬による治療に関する概念, 用語を知る。 2. 生薬について知る。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 現代歯科薬理学第6版の漢方薬 (p394-397) を読む。 ・準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 ア 治療の基本 b 種類と特性 (原因療法、対症療法、保存療法、根治療法、緩和療法)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。</p>	松崎 桂一
2018/08/27 (月) 2時限 10:40~12:10	平常試験4 (講義)	<p>【授業の一般目標】 薬理学2の講義 (4月9日~7月23日) に関する筆答試験を行う。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 薬理学2の講義の要点について記述できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理学2の講義の要点が記述できる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 筆答試験 (アクティブラーニングの成果を評価する)</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/08/27 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験4 (講義)	<p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 b 薬効 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬 c 抗感染症薬 d 抗腫瘍薬 e 代謝改善薬、ビタミン f 止血薬、抗血栓薬 g 齶蝕予防薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/08/27 (月) 3時限 13:10～14:40	薬理学2まとめ・ 解説	<p>【授業の一般目標】 平常試験1～4を主な題材とし、薬理学2の要点を確認する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理学2の講義における要点が説明できる。 2. 薬理学2の実習における要点が説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理学2の講義・実習項目を挙げられる。薬理学2の講義・実習における要点が説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 2 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 b 薬効 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬 c 抗感染症薬 d 抗腫瘍薬 e 代謝改善薬、ビタミン f 止血薬、抗血栓薬 g 齶蝕予防薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里
2018/08/27 (月) 4時限 14:50～16:20	薬理学2まとめ	<p>【授業の一般目標】 平常試験1～4を主な題材とし、薬理学2の要点を確認する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理学2の講義における要点が説明できる。 2. 薬理学2の実習における要点が説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 薬理学2の講義・実習項目を挙げられる。薬理学2の講義・実習における要点が説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有 ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/08/27 (月) 4時限 14:50～16:20	薬理学2まとめ	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室、第1実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 b 薬効 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬 c 抗感染症薬 d 抗腫瘍薬 e 代謝改善薬、ビタミン f 止血薬、抗血栓薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	三枝 禎 山根 潤一 松本 裕子 青野 悠里